

夏の到来

バングラデシュでは冬が終わり、春を飛ばして夏がやって来ました。気温は日中 36℃を超えます。熱帯気候のバングラデシュでは、これから 10 月まで夏が続きます。そんなバングラデシュに暮らす人々の服は、暑さ対策が考慮されたものになっております。

男性は仕事に行くときなどは日本のように、ズボンとシャツです。「フォトゥア(写真1)」と呼ばれるポロシャツのようなものに、ズボンという組み合わせで仕事をする人もいます。イスラムの正装である「パンジャミ、パイジャマ(写真3:男性)」を着る場合もあります。

また、ほとんどの女性は「スリーピース(写真2)」もしくは「サリー(写真3:女性)」を着ております。暑い環境で過ごすためには、服装の選択は重要です。



NDMHS 授業取材！ 社会科：カレッド・サイフツラ先生より

私は、まず授業環境をつくることに注力しています。私の考え方や、教育方針、授業への取り組み方の共有なしに、良い授業を行うことはできないからです。1月・2月には生徒の生活指導を徹底しました。そのため、授業がスムーズに進むようになってきました。

授業では、生徒の視覚に刺激を与えるため、多くの授業でプロジェクターを使い、歴史上の出来事、現代の問題をイメージとして見せる事で、学習内容の定着度向上を図っております。(写真4)

また、人前で自分の考えを述べることに恐怖心を抱いている子が多くいる中で、コミュニケーション力をつけるために、グループディスカッションの機会を入れるように心がけております。生徒同士で意見交換をさせ、自分の頭の中にある考え、友達の考えを理解させます。そして、考えを掘り下げる質問をなげかけ、生徒同士でさらに深い思考を体感させております。



広がる貧富の差

先日首都ダッカのとある線路脇のスラム街を見て回る機会がありました。バングラデシュでは現在インフレが進んでおり、物価が上昇しています。一方、収入が増えることのない貧困層の方々は、より貧しい生活を強いられています。ここに住んでいる方々は川での漁業や、竹を編んだ製品を売り、お金を得ている様子でした。

下水設備がなく、ゴミが散乱しており衛生環境は劣悪です。水はどこから得ているのかもわかりません。電車がすぐそばを通過するので危険度も高い場所です。(写真5)

この場所で私たちが気になったのは、やはり子どもたちでした。この付近に学校らしきものは見当たらず、満足な教育が得られているとは到底思えませんでした。(写真6)

一方、ダッカの別のスラムには、私たちのカウンターパートナーであるBDPの小学校があります。スラムでもトタンでできた校舎に大勢の生徒と、少数の先生が集い、教育が展開されている場所があるのです。しかし、この学校を運営する予算はごくわずかなため、教育環境や質は決して十分とはいえません。私たちが教育モデルをつくることで貢献していきたいと、改めて強く決意致しました。(写真7,8)

